

歩いてまわれるコースで名所旧跡を紹介する散策シリーズ。
潮風をほおにうけ、歴史を感じる名所と豊かな松の緑を存分に楽しむ「浜手の歴史散歩コース」。

加古川再発見に、さあ、出発！



市役所	3.6km (松風こみち) 54分	〈山陽電鉄〉 別府駅	1.0km 15分	手枕の松 〈住吉神社〉 あかがね御殿	2.7km 40分	浜の宮公園 浜宮天神社	1.3km 20分	尾上神社 尾上の松	1.2km 18分	鶴林寺	1.2km 18分	市役所
-----	----------------------	---------------	--------------	--------------------------	--------------	----------------	--------------	--------------	--------------	-----	--------------	-----

浜手の 歴史散歩

あいたた観音さま

ある嵐の夜のことで。盗人が観音堂に忍び込み、金銅聖観音を盗み出しました。たたらをつくり7日7夜も火をつけ風を吹きつけるのですが、どんな強い火にかけても観音さまは溶けませんでした。腹をたてた盗人は、たたき割ろうとして聖観音の腰のあたりへ槌を強く打ちおろしました。突然、聖観音は、“あいたた／刀田へいのう、刀田へいのう。”とおっしゃいました。恐ろしくなった盗人は、夜陰に乗じてこっそりともとの観音堂に返しました。この時以来、聖観音の腰は右へ曲ってしまい“あいたた観音さん”と呼ばれ地域の人々から親しまれるようになりました。

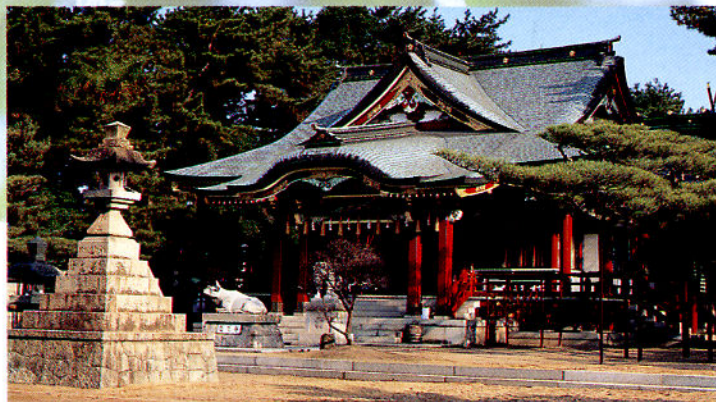


鶴林寺

神姫バス・高砂南行鶴林寺すぐ

聖徳太子が16才の時、秦河勝に命じて、仏教をひろめるための道場として三間四面の精舎を建て、釈迦三尊と四天王をまつり「四天王寺聖霊院」と称されたのがこの寺の始まりで、これが崇峻天皇2年(589)であったといわれています。現在は堂棟16棟、国宝、重要文化財が数多くあり、寺宝200余点を蔵し播磨の法隆寺といわれています。

また、古くから「刀田の太子さん」と人々に親しまれ、鬼追い(1月8日)、太子会式(3月21日～23日)は多くの人出で賑わいます。



浜の宮公園・浜宮天神社

山陽電鉄・浜の宮駅下車徒歩5分

市の木「黒松」が群生する公園です。昔の加古の松原です。15.9%の公園には、グランド・トリムランニングコース・バレーボールコート・ローンボウリングコート・市民プール・自由広場があり、市民に親しまれています。公園の西北端には、菅原道真公を祀る浜宮天神社があり、朱ぬりの新しい神殿が美しく、菅公お手植の松は堂々とした貫禄を持っています。



松風こみち

市木の黒松と市花のつつじで彩られた歩行者・自転車の専用道です。もと別府鉄道の跡地、約3km。加古川市の官庁街から臨海部を連絡しています。道の途中には4ヶ所の休憩所が設けられており、近くに鶴林寺、聖陵山古墳、あかがね御殿、手枕の松などがあります。

現代人へのためのうるおいとやすらぎのある道。100m毎に距離標があるのもユニークです。



尾上神社 尾上の松

山陽電鉄・尾上の松駅下車
徒歩15分

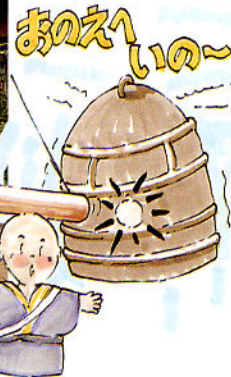
祭神は、海の神様、住吉大明神です。境内には、謡曲「高砂」に謡われた相生霊松「尾上の松」があり、現在の松は五代目です。「片枝の松」もまた名松です。なお、面白い沈鐘伝説を持つ「尾上の鐘」は、代表的な朝鮮鐘で重要文化財に指定されています。

尾上の鐘

このつり鐘は、もと龍宮にあったものだといわれ、神功皇后が三韓征伐からお帰りの時、尾上神社に納められたといわれています。

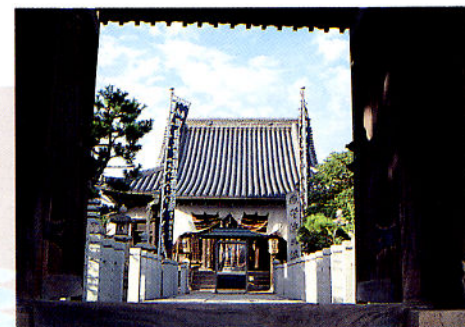
それから1200年ほどのち、海賊がこのつり鐘が赤銅でできているときいて盗み出しました。船につんで逃げる途中、足摺岬まで来て、急に大嵐になって今にも沈みそうになりました。“たいへんだ。龍宮の神様がつり鐘をよこせと言っておられるに違いない。”

“そうだ。早くさしあげんと船が転覆するぞ”とつり鐘を海に投げ入れると海は、みるみる静かになりました。が、そののち夜になると海の中が光るようになり魚が逃げた。その後つり鐘は高野山に奉納されましたが、高野山でこの鐘をつくと、“おのえへ、いのー。おのえへいのー”と聞こえます。そうして尾上神社へ帰ってきたという話です。



浜までは海女も
暮着る時雨かな

浅瓢水



観音寺

山陽電鉄・浜の宮駅下車
徒歩南西へ15分

観音様のお告げの白布を船印にすると波風に困ることがなかったという。それ以来、高砂の浦人は皆、船印に白布を使うようになったとか。別名「白旗観音寺」ともいわれています。